

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
24

2012 長月・神無月

教学

ダーマの徳性と
人間の霊性について(下)



ダーマの徳性と人間の霊性について(下)

前号に続き金剛禅思想の根本となるダーマの徳性と人間の霊性について再確認する。
金剛禅布教者のあり方、人は可能性の種子であるという所以を理解したい。

宗務局長 田村明

ダーマの徳性と人間の霊性の関係詳説

教範上巻69～70ページ

開祖は、宇宙に満ち宇宙を支配する法則を「不思議なはたらき、すなわち宇宙の霊力」とし、四つを挙げた。それが「育徳」「明德」「力徳」「健徳」である。この霊力は人間に与えられたすばらしい可能性のことであり、開祖はそれを「人間の霊性」と表現したのである。

そして、その守るべき道筋を、「仁愛」「英智」「勇氣」「健康」の四つに示した。これが四倫である。「倫」というのは、人の守るべき道筋のことである。

四つの徳とした「宇宙の霊力」とはダーマのことであり、「人間の霊性」とは英智を持った人間のことである。宇宙に満ち宇宙を支配する法

則としての輝きを「宇宙の霊力」と言い、また人間だけに与えられたすばらしい可能性を四つの倫で「人間の霊性」といい、それを照応させているのがこの図である。(次ページ)

四徳四倫の関係を分析してみよう。

「万物育成 大慈悲」とは、宇宙にあるすべてのものの育成のことである。それを「育徳」として、釈迦の慈悲、孔子の仁、キリストの愛、我執我欲から離れた誠、真心として「仁愛」に結んでいる。「仁愛」とは、「情け深い心で人を思いやること。いつくしみむこと。また、そのさま」である。

「除暗遍明 大光明」とは、智慧の

光で煩惱の暗を除き遍く照らすということである。それを「明德」として、久遠の真理、宇宙の神秘を悟り無限の発見と創造開発の知性として「英智」に結んでいる。英智とは、「優れた知恵。深い知性のこと」である。

「自強不息 大剛力」とは、天地の運行が健やかであるように、みずから努め励み怠ることのないことを「力徳」として、却悪為善の大雄猛心、向上不休の意志力である「勇氣」に結んでいる。却悪為善とは、「悪を却け善きことを為すこと。雄猛心とは、勇氣があつて物事に屈しない心のこと。向上不休の意志力とは、休まず向上し続ける意志のこと」である。

「無始無終 大生命」とは、始めも終わりもなく、限りなく繋がっていること、無限であることを「健徳」と

して、生命のあるかぎり自ら癒やす神秘力、子孫を残し生命を伝える不思議な力である「健康」に結んでいる。これは自然治癒力と生命力である。

そしてこれらを結ぶものが「行」である。なぜなら、生成の過程に実現させていく内在的目的と可能性が「霊性」の本質であり、また、行為を繰り返す日常的な訓練の中で修得していくものだからである。

金剛禅教育とは、目的や可能性を信じたうえで、この育つ可能性を有する種子である人間の霊性を高めることにある。

以前教範解説シリーズの『金剛禅について(下)』の中で、『少林寺拳法の修行目的たる自己確立ということとは、具体的には、「仁愛」と「英智」(精神修行)、「勇氣」(護身練胆)、「健康」(健康増進)の獲得を目指し

て、自己を変革する努力を尽くすことなのである』と解説している。ダーマは靈性であると同時に行為の規範であるともある。

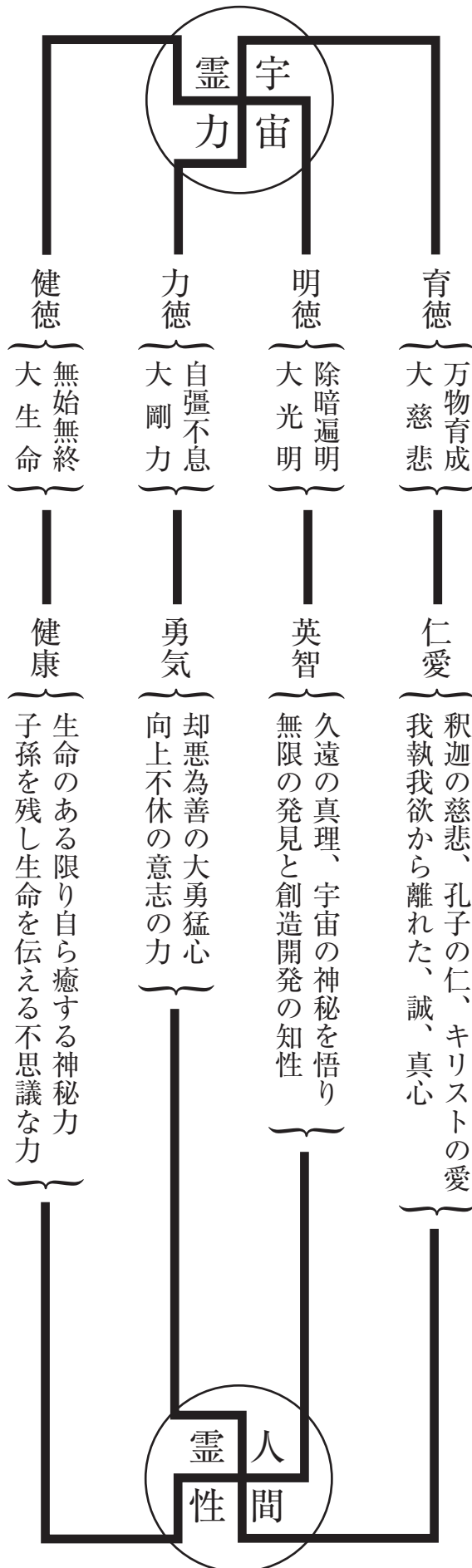
開祖が繰り返し述べておられるこの「靈性」は、今を生きているわれわ

れがその「命」を感じて、絶えず感謝の心を持ち、人としての生き方を追求していくことである。だからこそ「誰にでも仏性があり、無限の可能性を秘めた種子」なのである。

今を生きていることの重要性は、

金剛禪が在家主義であること、そして、日々直面する実生活での現実こそが実践の場であることにある。現実から乖離した教えや修行はないのである。金剛禪は、今この社会に生き、現実に則した教えなのである。

だからこそ金剛禪布教者は、現実社会と向き合いながら、自分の修行を怠ることなく、精進する者のことである。在家主義たる所以である。



靈性を高め人間の可能性を見る

教養とはまさに品格のことであり、「人品骨柄卑しからぬ紳士」という言葉があるように品位のことである。

「人品(じんぴん)」とは、「その人に備わっている品位、その人の風采・態度・身なりから感じられる品位のこと」である。

「品位」とは、「人や事物に備わっている気高さや上品さのこと」。「品格」も同じく、「その人に感じられる気高さや上品さのこと」である。われわれはこの品格を高めることが大切である。それが金剛禪から見た言い方で「育つ可能性を有する種

子たる人間の靈性を高める」ということである。

しかし、可能性の種子は、あくまで単なる可能性に過ぎず、これを育て、開花結実させなければ無に等しいのである。これを開花結実させるものが「修行努力」なのである。

可能性のある種子、今を生きる

「一切衆生悉有仏性」という言葉がある。「すべての生きとし生きるものは、仏性ぶつちやう即ち、仏になる可能性を有している」という大乘仏教における重要な思想を表した言葉である。これは、金剛禪での「すべて生きとし生けるものにダーマの命が宿っている」という開祖の思想と同じ土壌に立つものだ。

これまで、われわれは育つ可能性を有する種子であることは何度も展開してきたが、ここでも同じ考えである。自分がダーマの分霊としての魂を持つ人間であっても、可能性

を持つているだけでそれに気づかなければそれまでで、まず生かされている自分を信じることからスタートしなければならぬ、ということである。

われわれ金剛禪門信徒のキーワードは、「生」「命」「今」「自分」である。生まれた瞬間から老死に向かうわれわれは、その矛盾の中で生きていくのである。しかし、いつかは死ぬ運命の中で、生きることへの価値や感謝があれば、どのような生きざまが人にとっていちばんよいのか解るといふものである。

釈尊の言葉に「天上天下唯我独尊」とある意味は、「天の上にも天の下にも、ただ、われわれ人間だけが果たせる尊い使命がある」とか、「この世に個として存在する我より尊い存在はないということ、人間の尊厳を表している言葉」などの意味があるが、「自分がいちばん偉い」と誤用されることもあるようだ。

瀬戸内寂聴はその著書の中でこの解釈を「天にも地にも、自分という命はただ一つしかない。掛けがえのない尊い命である」と訳され、「人間の命は非常に大切である。大切な人生だから一生懸命生きなさいとお釈迦様はおっしゃった」と解説している。まさに命の尊さである。

今を生きるわれわれは、その瞬間を大切にし（一期一会）、今までのことを反省したり感謝したりして迎えた今を大切にすることである。それが礼拝詞らいはいしに述べているダーマであり、金剛禪思想の根本ではなからうか。だから先ほどキーワードを「生」「命」「今」「自分」としたのである。

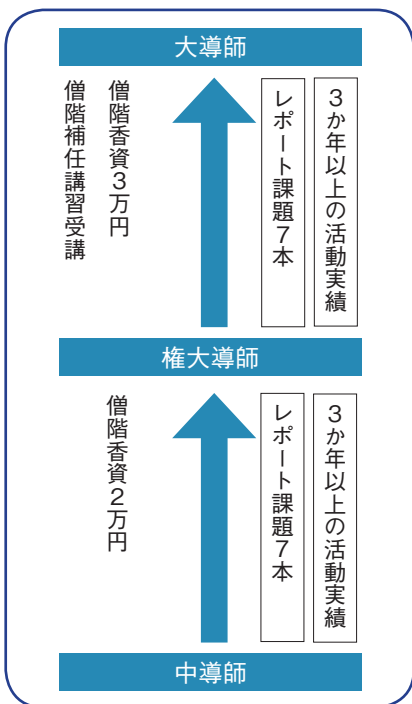
縁起の法則が法の根本である。過去の「因」が今の「果」であるから、過去の因を反省・感謝し、今を「因」とし、将来よき「果」を迎えるために今を大切に生きることが必要である。「今」が大切であり、変わっていく自分を見るのである。

現在、中導師、権大導師の道院長の方へ

僧階制度において中導師もしくは権大導師の道院長の方は、活動実績の期間が一般門信徒とは異なります。但し、レポート課題については、例外なく規定の本数が定められています。

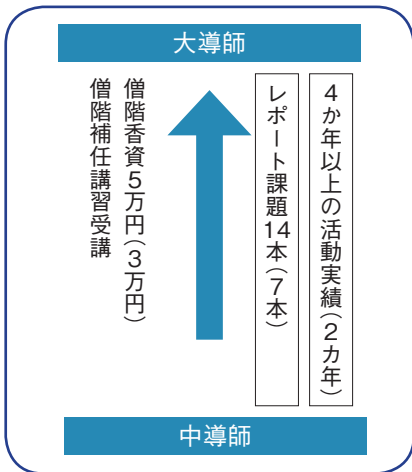
また中導師科目（≡権大導師までのレポート）と権大導師科目（≡大導師までのレポート）の順はなく、いずれからもレポートを提出することが可能です。

中導師から大導師へ ①一般門信徒の場合



②道院長の場合

※ただし、権大導師の場合は () 内が適用される。





開祖語録 ダイジェスト

1976年度
高校拳法部合宿
にて

清風

vol.24 宗務局長 田村 明

仲間づくり

大乘教典の一つ仁王般若經（にんのうぼんげきょう）に説かれていた四摂法（四摂事ともいう）は、布施・愛語・利行・同事であるが、その中で愛語はいちばん初めに実行しなければいけないことである。

最近の小・中学生の自殺がよくある。いじめである。いじめの多くは言葉が多い。直接であったり、メールであったりする。人との関わり合いの中で、相手にかける言葉の重要性を考えなければならぬ。言葉一

つで人を救うことができ、勇気を与えることができるのだ。

助けを求めたくても相談する仲間もなく、親にも話せない状態がある。周りには人間がたくさんいるにもかかわらず、孤独である。いわゆる集団の中の孤独である。都会はまさに人の洪水状態であるが、人と関わるのがない人間は孤独感を味わうのだ。よい仲間恵まれるかどうかはその人の人生を変える。よい

君たちは、強くなりたくて少林寺をやるという人が8割以上おるだろうと思う。

警察の逮捕術の中でも、少林寺にかなうものはない。相手がどうしてきたら、どうする、例えば首を絞めてきたら、あるいはひねってきたら、どうしたらいいか、もっとも有効に相手を制する、それが完璧にできるのは少林寺拳法の技術しかない。

だから少林寺の技を身につければつけるほど、どんなときにも、なんとかならんじやないかという安心感ができ、これが自信を育てる第一要素である。少林寺はうぬぼれではなく自分を確立する近道である。

私の喧嘩術

それと同時に、ぜひとも考えてほしいことは、空手が強いとか、柔道ができるとか、少林寺ができるとかいっても、刃物や銃にはかなわないのです。

また、技が上手であるということと、喧嘩けんかに強いということ、この二つは別のことである。私は自分から喧嘩はしないが、降りかかる火の粉は払わなければいけませんから、その時点、時点で相手を抑える、そういうことはしょっちゅうやってきた。しかし後へ恨みを残さないで、結局は

仲間に出会うことで実りのある生活が過ごせる。友人しかり、家族しかり、心の許せる仲間を増やすことが大切である。道院がそのような場所であってほしい。真の仲間づくりであり、共に生きていく指針が見つかる場である。金剛禅運動（幸福運動）は自己確立・自他共楽の道であり、人間相互の援たすけ合いにより物心共に平和で豊かな社会を実現するための運動であることを忘れてはいけない。

説得してだね、もっといい方向へ行くことを見つけた。だから喧嘩をして勝ったうえで、相手から「先生」とか「兄貴」とか「親分」とか言われる。これは技術プラス精神力プラス徳、判断力とか、統率力とか、まあ、いろんな要素があるわけで、その総合力としての強さです。

別の表現をすれば、本当に強いというのは喧嘩をすることではなく、喧嘩を売られても届かないところにおれば勝てるんじゃないか。勝てないまでも、負けたにならないんだ。

※この開祖語録中の「少林寺」は、金剛禅総本山少林寺を意味しています。

訂正 vol.22「清風」で次の誤りがありましたので、訂正いたします。

1行目三宝のルビ さんぼう→さんぼう

人生感意気、功名誰復論



「人生意気に感ずる、功名誰か復論せん」

人は、相手の心意気に感動して行動するものであり、手柄や名誉など問題ではないということを示しています。出典は、「述懐」という漢詩の中のくだりの部分であり、作者は魏徴、唐国の諫議大夫（過失を諫める役職）で主君にも常に直言を辞さず清廉潔白なる人物であったといわれています。

もう少し詳しく説明すると、「述懐」の大意は心中の思いを述べることと、広辞苑では訳されています。

魏徴は李淵と天下の覇を争った李密に仕えていましたが李密が李淵に降伏したことにより、李淵に仕えるようになったのです。李淵は後、唐の高祖となった人物です。

敵方の武将である徐世勳を説得し、帰順を促すために作られた漢詩がこの「述懐」といわれており、名文とされています。

特に「人生感意気、功名誰復論」のくだりは武人の心を揺さぶる名文句であるといえるでしょう。

開祖は言葉巧みで人たらしであったということ、よく耳にしますが、これはなにも開

祖の陰口や批判しているのではなく、開祖の人心掌握術であったといえます。開祖は盤石の組織創りのため各人の人となりや性格などを把握する手段としてまた、適材適所に人を配置するための方策の一つであったのです。

その開祖も今はなく、適材適所の判断も難しいものとなってきています。

先人は開祖の心意気に共感し、心を動かされて法門に入り、志を受け継いで後世に伝えていく使命を帯び、われわれはそれを現代社会でさらに発展させ、後世に正しく伝えていかねばなりません。

その行動こそが、開祖の志を引き継いで行くことなのです。

先人もわれわれも少林寺拳法の技法と金剛禅の教えに意気を感じ、手柄や地位や名誉などにとらわれず、只管自己研鑽に励み、半ばは自己の幸せを・半ばは他人の幸せを本当に思いやることのできる人間完成の行を修行して行かなければなりません。

これぞ「人生意気に感ずる、功名誰か復論せん」ということではないのでしょうか。

開祖はまた、私を超えるものがあればいつ

でも超えていきなさいとも言っておられました。

少し言いすぎかもしれませんが、われわれはいつまでも開祖にしがみついているのではなく、乗り越えていかねばなりません。

昨年4月より組織機構改革が始まり、新たなことが次から次へとやってきて、戸惑いを隠せないのは事実であると思いますが、門信徒各人が一丸となって組織を守っていかねばわれわれのあしたはありません。偉そうなことを言っている私ですが、未だ我が師をも超えられず、毎日もがいているきょうこのごろです。

しかし、超えられないからこそ何事にも諦めず、誠実さと真摯な気持ちを持って努力していくことが大切であることを信じ、一歩でも師に近づけるよう日々修行をしています。

信条の中に「自己の名利のためになすことなし」とあるように、われわれも魏徴と同様人生を意気に感じて、手柄や地位や名誉など気にせず修行に励み、現代の魏徴になろうではありませんか。

皆さん頑張りましょう。



法縁

松戸相模台道院 道院長 渡来 士郎

自分のこれまでを振り返ってみると、人生のあらゆる面で「法縁」というものがいかに深く関わってきたか、そして縁によって生じた多くの人との出会いに、いかに自分が生かされているかを改めて実感します。

開祖は縁について木に例え、「同じ種類、同じ大きさの木を植えても、その一本一本が植えられた場所、環境状況によって、日光、土壌、水、肥料など媒介物の相互作用の結果、ある木は育ち、ある木は育たない。同じようには育たない。原因に働きかけてさまざまな結果をもたらす。このような条件の相互作用を仏教では縁と呼んでいる。すべてのものは縁によって生じ、縁によって滅する相對の世界である」、そして「人生は出会いである」とおっしゃっています。

昭和22年生まれで、現在60代半ばを迎えておりますが、私にとって一番の縁は何といっても少林寺拳法との出会いです。

自分自身ここまで少林寺拳法に関わるとは思ってもいませんでしたが、今まで45年の長きにわたり、人生の大半は少林寺拳法とともに歩んできたといっても過言ではありません。

法縁の始まりは昭和42年に大学の少林寺拳

法部に入ったこと、そして法縁の第二は仕事です。社会に出て2年後、当時はあまり見向きもされなかった地方公務員になることで少林寺拳法を続けられる環境を得たことです。利益を追求する会社への就職であったら時間的制約などで恐らく少林寺拳法はやりたくても続けられなかったと、見えない縁に心から感謝しております。

昭和50年に市役所支部を開設、その後支部道場を開設し、道院と続きますが、こうした中でやはり法縁の最たるものが人との出会い、そこから生まれるつきあい입니다。

大学少林寺拳法部の仲間がつきあいの原点ですが、職場での少林寺拳法の仲間、道院の仲間、そして保護者、支援者などとの関わりも、いかにこうした人たちとのつきあいが自分の人生に最も大切なものになっているかは計り知れません。

この世の中、自分一人では生きてはいけず、社会の一員として生きていかなければなりません。であれば、人との出会いを大切に、そして周りの人たちを思いやる気持ち、それを表に表すことが大事です。

これが少林寺拳法の根本理念である「自他

共楽」の精神です。例えば、挨拶一つにしても、自分から率先して周りの人にすれば必ず相手に通じるものなのです。向こうも必ず笑顔で挨拶を返してくれるでしょう。これが社会生活での交わりの第一歩です。

今の世の中、電車に乗れば若者のほとんどは携帯に目を落としています。歩きながら、また自転車に乗っていても同じ状況です。異常に感じるのは私だけでしょうか。

ますます自己中心の世界が広がる中で、社会生活の規範を守っていくには多くの努力が必要になります。そして、こうした社会の移り変わりをよく見つけ、認識し、常に自分を規制(自己確立)していかなければなりません。

そうした中で、われわれの願いは「天国や極楽は、あの世にあるものでなく、この世に創るべきものであり、それは神仏が創るものではなく、人間が協力して創り出さなければならぬものである。人間の心の改造と平和的な手段によって地上天国を実現しようとすること」です。

多くの法縁を基に、理想境実現に向かって進むことが、少林寺拳法を学ぶものの使命にほかなりません。

ダイジェスト



志をつなぐ

vol.9

こいけ たかただ
小池 孝忠 64期生
権少法師大範士八段

人生に生かす当身の五要素
心豊か、人豊かな日々

25歳のとき、開祖と一緒に風呂に入り、背中をお流ししながらいろいろなお話をした経験が、今でも心の拠り所になっています。中でも印象深いのは、「小池、当身の五要素を実生活で実践しているか」と、人とのつきあい、生活、社会構造の中で当身の五要素を生かしていくことの重要性を教えていただいたことです。その教えを守ってきました。

おかげで、すばらしい人に恵まれ心豊かな今があるのだと思っています。教えは実生活で実践してこそ、初めて意義があるものです。これまでにたくさんの方々が道院長・指導者となり、巣立っていきました。これからの教えを実践できる人を一人でも多く育てていきたいと思えます。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼1975年、忘年会にて



▲1960年代、三井造船少林寺拳法部時代

ダイジェスト



道院長 元気の素

vol.9

せいのおきた
西濃北道院
かのう ひろゆき
道院長 加納 博之 (45歳)

自分で考え、行動できる人を育てる

——道院での指導方法の工夫を教えてください。

小学生の拳士が多いので、少年部指導講習会などを参考にさせていただき、修練に反映させています。笑顔の絶えない道院であり続けたいと思っています。

道院では整列時に班分けして班長が最前列に並ぶようになっていきます。すべての班長は「班長」の袖章を付けています。そのことで班長とし

ての誇りを持ち、本人のモチベーションが高まることはもちろんのこと、班の後輩拳士もみずから班長になりたいという気持ちを持つてもらえるようにしています。

具体的には班別で天地拳第一系や班別逆突きなどを行い、その場で点数を伝えます。子どもたちの集中力も高まり、けっこういいですよ。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



認証式

道院長は情熱を燃や
す機関車であれ

6月24日、本山において認証式が挙行された。今回認証を受けたのは、愛知藤岡道院、浦江克英道院長と鹿兒島串木野道院、福山勝浩道院長の二人で、式典では金剛禪運動の先導者として信念と誇りを持って人づくりの道に挺身していくことを誓った。

式典後の「フォーアアップ講習」では、道院の意義や道院長としての使命を再度確認する講義や、道院活動を活性化させるための討議が行われた。

最後に、浦田武尚代表が「機関車のように、みずから情熱を燃やして門下生を引っ張って



く道院長となってほしい」と激励された。地域に根ざした道院として成長していけるよう、新道院長の活躍に期待したい。

(富田雅志)

僧階補任講習

自己の資質を
高める1日

7月8日、本山において僧階補任講習(中導師・大導師)前期が開催された。

夜明けまでもない早朝6時から始まった本講習会は、他の講習会とはまた違った清澄な雰囲気を出し、受講者の表情にもすがすがしさが浮かんでいた。

講習では、金剛禪布教者として、自己の資質を高めるプログラムが、講義や実習によって展開された。また、相互に話し合いながら教化し合う法座や儀式の所作の確認といった、ふだ

三重白山道院

開祖の志の
再確認と実践活動

5月27日、三重白山道院は宗道臣デーを開催しました。

まず、道院で開祖忌法要を行います。道院で開祖を偲び開祖の志を再確認したのち、徒歩に

ん学ぶことの少ない項目についても実施した。

受講者13人の内、3人が大導師、3人が中導師の補任を受け、閉講式で、浦田武尚代表より僧階辞令が授与された。

今後、この講習会を受講されたすべての方が、ここで得たものを、道院をはじめ日常生活で積極的に生かしていけることに期待したい。(小林博紀)



て近鉄神原温泉口駅に移動して駅構内の清掃班と募金班に分かれて活動しました。昨年に引き続き2回目ですので「去年もやっていたね」と地元の方から声を頂きました。清掃班も募金班(三重県連盟の東日本支援募金として納めました)も笑顔で精いっぱい取り組み終了しまし



た。その後は道院に戻り、道院を提供くださったっている小林さん(道院長の勤務先の元上司)の自宅にて大勢で焼き肉パーティーを楽しみ、より親睦を深めました。

今回は宗道臣デーの前に開祖忌法要を執り行ったことで、開祖を身近に感じ開祖に見守られている感じで宗道臣デーを楽しめました。

全国でも実施されている道院はあると思いますが、まだの道院は宗道臣デーの前に開祖忌法要を執り行うことをお勧めします。(川北洋行)

洛東道院

「人づくりの大道」を
改めて自覚する

6月10日、京都市武道セン

ター内旧武徳殿において第46回洛東祭2012を開催しました。洛東道院では森川是汪道院長のご指導の下、宗道臣開祖直伝の修行を47年間変わることなく継続しています。

46回目となることしのテーマは「つよくてやさしい人づくり」です。大会全体の取り組みを通じて、「人づくりの大道」である少林寺拳法の修行の本質を改めて自覚できたことは、拳士にとって大きな収穫となりました。

当日会場となった旧武徳殿へは、遠方からお越しいただいた道院長をはじめ、多くの方々が詰めかけました。満席となった会場から、修行の成果を精いっぱい発揮した拳士に盛大な拍手が送られ、盛会のうちに大会を終了いたしました。(山岸修二)



2012年6月度 認証

●新設 ●道院長交代 川崎麻生道院 田中 克成 東京南六郷道院 白尾 宗典
 鹿児島串木野道院 福山 勝浩 安城道院 薦田 一行 福岡山王道院 相田 忍 愛知藤岡道院 浦江 克英

僧階昇任者

大導師

■2012年7月8日付

浅井 昌典(浜松渡瀬道院)
 佐竹 浩志(豊川南道院)
 横田 和典(高槻南道院)

中導師

■2012年4月1日付

宇佐美 智(静岡竜爪道院)
 北野 隆司(富田林東條道院)
 西尾 元秀(姫路花北道院)
 原 和久(佐世保天神道院)

竹下 昌史(阿蘇西原道院)

■2012年6月1日付

近藤 伸洋(東京小平道院)
 三浦 勇(三田東道院)
 蒲地 哲哉(武雄道院)
 村上 眞啓(三島石床道院)

■2012年7月1日付

高安 隆二(新宿曙橋道院)

■2012年7月8日付

山本 さと子(引佐道院)
 長澤 克彦(刈谷中部道院)
 貞永 英二(宇部常盤道院)

お布施

▷山上万智子 故内山滋道院長息女 30,000円
 ▷東條智 愛知高上道院拳士 10,500円
 ▷蔵本朝子 故蔵本清道院長夫人 20,000円
総本山少林寺改修基金
 ▷安森利男 本部道院安森拳士祖父 50,000円
 ▷高野弘志 埼玉妻沼道院長 100,000円

9月の本山行事

16日(日)~17日(月・祝) 講習会1次
 17日(月・祝) 僧階補任講習(少法師)
 23日(日) 帰山

10月の本山行事

6日(土)~7日(日) 特別講習会
 7日(日) 達磨祭
 28日(日) 認証式

訃報

かつまた よしはる 勝亦 美晴 富士加島道院道院長、216期生、大導師正範士七段。
 2012年7月23日逝去、満63歳

2012年度特別講習会のご案内

本山において「特別講習会」を開催いたします。テーマは、「他人(ひと)が生きる、私が生きる」です。講習会全体を通して、社会が大きく動く中、現代に生きる少林寺拳法であるために、正しい目的に向かって修行を積むことの意義を感じ取っていただきます。講習会の内容としては、テーマに関する講義、僧階講義のほか、技術プログラムでは、「急所」をキーワードに基本から羅漢圧法までを題材に講習します。また達磨祭では、法要や演武会に参列・参加し、多くの人と交流を図りながら達磨祭を肌で感じていただきます。門信徒・会員の皆さま、ぜひ奮ってご参加ください。詳細につきましては、マイページ「お知らせ」画面に掲載しておりますので、ご覧ください。



日時：10月6日(土)8：50開講~7日(日)12：00終了予定
 対象：正拳士四段以上の現役門信徒もしくは現役会員

2013年度 金剛禅総本山少林寺 職員募集のお知らせ

金剛禅総本山少林寺では、2013年度職員を募集しています。“職場という日常生活の中で自己確立、自他共楽を実施しながら、人間力を高めませんか？”

【仕事内容】 各種行事の運営、事務全般

【公募内容】

職 種	事務職
人 数	2名
年 齢	20歳~25歳まで
学 歴	高校卒業以上
資 格	少林寺拳法三段以上
特 記	パソコンがある程度できる方

【採用審査】

公募締切日：2012年9月28日(金)

選考方法：第一次審査…書類審査

第二次審査…面接、技術、職業適性検査、筆記試験(一般教養、少林寺拳法に関する分野)
 提出書類：履歴書、卒業または見込み証明書(コピー可)、成績証明書、応募の動機と決意(400字詰原稿用紙3枚)

勤 務 地：金剛禅総本山少林寺 本山(香川県)

連 絡 先：総務部総務課 中山亨世

Tel.0877-33-1010(内線171)

※詳しくは担当までお問い合わせください。見学・体験も可能です。

編集後記▶残暑厳しい9月である。都会でも川のせせらぎが涼しさを運んでくる。▶「流水腐らず」という言葉がある。流水は澄んでいるが、溜まってしまうと濁る。人間には三つの水がある。血と汗と涙である。血をたぎらせ、身体を動かし汗をかき、時に涙を流し喜怒哀楽に徹する生き方。▶思えば開祖の生きざまそのものである。今を生きている私たちは「靈性」を留めることなく、流水の如き生き方を目指すべきである。防災の日、震災復興に向けて。(お)

表紙▶河合修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。ホームページは「写真家 河合修」で検索！名古屋千種道院、中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶
<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/index.html>
 2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん | vol. 24
 金剛禅総本山少林寺広報誌 2012 長月・神無月

2012年9月1日発行(奇数月1日発行)
 発行人：浦田武尚
 発行所：金剛禅総本山少林寺
 〒764-8511
 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48
 ☎0877-33-1010
<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：大澤隆
 企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院
 〒170-0004
 東京都豊島区北大塚2-17-5
 ☎03-5961-1400
 e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本：(株)ブル・ドック
 ※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITY によるライセンス事業の収益金が活用されています。

広報誌「あ・うん」追加発送について ◆◆◆◆◆
 現在、広報誌「あ・うん」を1道院につき10部ずつ(一般財団支部は1部ずつ)、毎号ご提供させていただきます。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)
 TEL.0877-33-1010
 e-mail : fukyoka@shorinjikempo.or.jp

いちごいちえ
 一期一笑



イラスト/大原由軌子

八王子南道院 綾 啓造

還暦からのチャレンジ

昇格考試に合格し、本山より三段の允可状が届きました。取得までに丸7年を要しましたが、道院長、先輩諸氏による親切丁寧な指導、同輩の協力ほか、大勢の方の支援の賜物と感謝いたしております。
 入門の際は、家族、知人からも、もう年だから、危険だからと何度か制止されました。反対を押し切って道院通いをした結果ですので、感慨もひとしおです。手首の捻挫などで挫折しそうになった時期もありましたが、「継続は力なり」を信じて修練を続けてまいりました。
 私はゼネコンに35年ほど勤務し、海外駐在員として延べ17年ほど中東、南米、東南アジアなど海外に駐在しました。どの国でも「日本の武

道を教えて」と言われ、武道ができればもつと深いつきあいができるのにと思いながら、結局定年を迎えませんでした。そして、還暦からでも遅くはないと一念発起して少林寺拳法の門を叩いた次第です。多度津の隣の坂出市出身ということもあり、少林寺拳法と密かに決めていました。
 2年ほど前、JICAの派遣員としてブータン駐在の折は、訓練校の女子生徒を前に護身術として少林寺拳法を紹介し、遅ればせながら外国人に武道を感じてもらえる喜びを味わいました。現在、68歳、体力が続くかぎり、若い人たちに混じって修練を続けられれば幸せです。また、還暦を過ぎてから少林寺拳法を始めの仲間が増えることを願っています。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
 TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

Ryuo Ken, Katate Yori Nuki



宗門の行としての少林寺拳法

りゅうおうけん かたてよりぬき
龍王拳 片手寄抜

寄抜の^{かぎてしゅほう}鉤手守方は、手掌をやや内側下方に向けると、相手の手首を殺しやすく、握力を半減させることができる。

抜く際は、相手に歩み寄るように我の右肩を鉤手の位置に近づけ、手首の支点部分がぶれないように寄抜をするとよい。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：冨田雅志 大拳士五段 攻者：永安正樹 准範士六段